

ポイント

「人と人のつながり」をテーマに、楽しい仕掛けで学生・住民・店舗の交流を深め、街を元気に

神戸市でも屈指の高級住宅街である岡本地区を控える商店街。阪神・淡路大震災からの復興の過程で人と人とのつながりの重要性を再認識し、商店街活動にも人とのつながりに価値を置く事業スタイルを導入。「ひとバル」など顧客も店も楽しめる「人々を参加させる仕掛け」で、多くの学生や住民が商店街事業に参画し、活性化と新たな顧客の開拓に成功。また、東日本大震災で被害を受けた気仙沼の復興支援にも積極的かつ継続的に取り組んでいる。

商店街情報

所在地:兵庫県神戸市東灘区岡本1-14-14
 地域の人口:213,648人 97,708 世帯 (神戸市東灘区)
 商店街の類型:地域型商店街
 組合員数:290名
 店舗数:400店舗(主な業種構成:食料品小売業、衣料品小売業、飲食店、日用雑貨小売業、サービス業等)
 TEL:078-412-3096 FAX:078-453-2841
 URL:<http://www.kobe-okamoto.or.jp/>



商店街の風景

商店街の概要と近年の環境変化

阪急電鉄「岡本駅」と、JR東海道線「摂津本山駅」の間の約300mの地域に複数の街区を有する岡本商店街。神戸三宮には8分、梅田には約25分という位置で、阪急とJRの乗り換え客が多数街区を通行するほか、近隣には甲南大学、甲南女子大学や神戸薬科大学があり、多くの学生が街を訪れている。また、岡本地区は神戸の高級住宅地としても知られており、おしゃれなカフェやファッション・雑貨店、美容院等が軒を連ね、流行に敏感な女性や若者が目立つ商店街である。

当商店街は、昭和60年に商店街振興組合として発足、当時は現在に比べると地味な雰囲気だった。平成7年1月の阪神・淡路大震災で大きな被害を受け、地域の人々の支援を得て復興に尽力。「百年もつ、後世に残る道にしよう」という住民の思いと行政の協力・支援が実り、平成11年に石畳を敷き詰めた街路が完成し、「石畳の街並み」が商店街のシンボルとなった。さらに、地震で倒壊した建物の跡にマンションや商業施設が建設され、地域の人口は震災前より増加し、「岡本」は関西の住みたい街ランキングで常に上位にランクされるようになった。一方、立地する地域の関係から、地価が高く新たに入れる業種に限られる傾向にあるほか、店舗のオーナー率も低い状況にあり、個店の営業には様々な制約が存在している。

こうした中で、平成23年3月の東日本大震災においては、県や支援機関の紹介により「気仙沼新中央商店会」を訪問。その後、安否情報の発信代行や被災した商業者との交流を進め、平成24年には空き店舗を活用して復興支援を目的としたアンテナショップ「気仙沼まただいん」(“また来てね”を意味する気仙沼の方言)を開業。当初は助成金を活用していたがその後は独立採算で運営し、気仙沼出身のスタッフが丁寧に対応している。現在も年に数回組合員が気仙沼を訪れ、現地の物産品を定期購入して当商店街で販売するなど、息の長い支援活動を展開している。



気仙沼まただいん

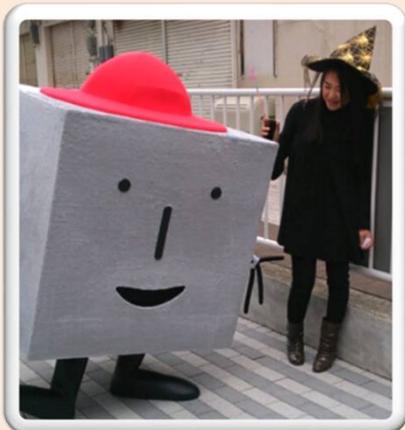
助成事業の概要とその成果

通勤・通学客等で人通りは多いが、若者は格安のチェーン店に流れ、商店街の利用が少ないことからこれらの人々をいかにして取り込むかが課題であった。そこで平成25年度の助成事業では、近隣の甲南大学、甲南女子大学や地域団体等と連携し、商店街のコミュニティに参加してもらう機会を作ることを主眼として事業を実施した。また、26年度事業では「ひとバル事業」と銘打って、「店舗は人と人が出会う場所」としての機能を強化するための諸事業を実施した。特に社会で活躍する人たちと語り合い、街が人と人の出会いや人から学ぶことのできる場所であることを認識してもらうことに努めた。

【平成25年度事業】

①まちライブラリー

東灘図書館が平成25年9月に移転することになり、本との関わりを持てるようにと「まちライブラリー」を実施。カフェなど参加した10店舗に本棚を設置し、それぞれ感想などのメッセージを添えた本を持ち寄ってもらい、本を仲介にコミュニティの輪を広げた。本棚を囲んでのお茶会等も開催し、人々の交流を深めることができた。



石だたみ君と魔法使い

②岡本のゆるキャラ「石だたみ君」作成

甲南大学生や地域の人々が参加して商店街のゆるキャラを制作。岡本ハロウィーンでお披露目し、子供クリスマスキャロルなどのイベントで活躍している。『岡本商店街を通る人々に踏まれながら、みんなが転ばないようにしっかり支えている石畳を気の毒に思った魔法使いの手によって、石だたみ君は地上に生まれました。』というエピソードがほほえましい。

③岡本ファッションショーの開催

甲南女子大学の学生と商店街のブティック等が協力して、岡本のファッション情報を発信するショーイベントを実施。岡本コレクション、南女コレクション、デニムコレクションの3部門で学生や地域の人々がモデルを務め、交流にも効果があった。

④ツタエテガミ事業(震災の被災地に手紙を届ける事業)

地域の住民や学生、店主たちが東日本大震災のドキュメンタリー映画を鑑賞し、阪神・淡路大震災の体験を含めて語り合う場を設置。参加者が被災者への励ましの手紙を書き、商店街の理事が気仙沼の仮設住宅に届け、心からの支援を行った。

⑤石だたみ大学の開催

商店街が運営する岡本好文園ホールを会場に、カフェや雑貨店、ダンススタジオのオーナー等を講師に20歳以上の女性限定のワークショップを開催。参加をきっかけに店主とのつながりができ、常連となるケースも見受けられた。



石だたみ大学の風景

【平成26年度事業】

①成功者と語ろう・ひとバル

前年度実施した「石だたみ大学」を発展させた事業。通常のバルは、店舗を巡って飲食を行うものだが、「ひとバル」は店舗を巡ってそこで開催される様々な分野の人との語り合いに参加し、楽しみながら学んでもらおうというもの。店舗は人と人の出会う場所を具現化した事業で、以下のようなテーマで開催した。



ひとバルの風景

《開催日とテーマ等》

- ・平成27年3月15日 関西ウォーカー編集長、まちライブラリー提唱者
- ・平成27年3月20日 よしもと所属のお笑い芸人の苦労話、ノーベル賞授賞式の酒を造る仕事
- ・平成27年3月21日 神戸市広報専門官、甲南大学法科大学院院長、自然農法コンサルタント
- ・平成27年3月22日 映画ロケのコーディネーター、クラウドファンディングコーディネーター
- ・平成27年3月24日 プログラマー、古民家再生によるまちづくり、映画監督、デザイナー、漫画家
- ・平成27年3月28日 グランドフィナーレ(交流会)

②謎解きイベント

商店街の店員からヒントを得て謎を解いていくイベント。店舗との交流を深めることを目標に実施した。



a.プレイベント「魔法商店街の不思議な門」

ヒントが貼ってある商店街の5店舗をめぐり、クロスワードを完成させて呪文を見つけると抽選で本格版周遊謎解きイベントの招待状がもらえる仕組みとした。

b.本格版周遊謎解きイベント「魔法商店街と伝説の杖」

商店街の各所にあるヒントをもとにキーワードを見つけて謎を解き、時間内にゴールした方へ豪華賞品をプレゼント、参加者全員に「ひとバル」で使用できる飲食券を進呈した。

c.グランドフィナーレ交流会

第一部として交流会場で「ひとバル」を実施。企業の役員、童話作家、デザイナー、タレント等が参加してくれ、参加者は各テーブルを回って興味ある講師の話の話を聞いた。

第二部は、商店街の個店情報等をヒントにした謎解きの企画で、同じテーブルの参加者同士が相談しながら呪いを解くおまじないを探求。交流を深めるとともに個店を身近に感じてもらうことができた。

助成事業以降の商店街活動

「人と人とのつながり」で街を活性化する「ひとバル」等の事業は盛況裏に終了。組合では、その成果や手法を踏まえて、顧客と店が「互いに顔の見える関係でつながる」ための仕掛けを工夫しながら、様々な事業を展開している。事業の企画から運営については定例の役員会のほか、メールやLINEを有効に活用して組合員との情報の共有を図っている。

①商店街では常にイベントを開催して、来街者へのアピールと交流を促している。

- ・ 2月 梅の味覚フェア
- ・ 5月 岡本ハンバーガー・フェスティバル
- ・ 8月 ジャズ盆踊りと流しそうめん、サマーフェスティバル
- ・ 9月 岡本カレーWEEK・岡本カレーダービー
- ・ 10月 秋の味覚フェア
- ・ 11月 岡本ハロウィーンイベント
- ・ 12月 ウィンターフェスティバル



岡本ハロウィーンのボディペイント会場

②20歳以上の女性向けイベントの開催

商店街の立地上、主要な顧客は成人の女性であることから、女性限定の「女子力アップイベント」を春と秋の年2回、岡本好文園ホールで開催している。ホールでは、メイクやネイルアート等の出店や着物の着付け教室、タロット占いのセミナーを開催。街のカフェや雑貨店でもこれを盛り上げるセールやイベントを合わせて行っている。

③組合員による自主企画イベント

商店街組合が実施するイベントのほかに、各店舗が独自で「占い」「ライブ演奏」等のイベントを開催しており、全体では月間に50件を超えるイベント(平成29年3月)が開催されている。商店街では、これらのイベント情報を収集し、チラシや看板、ネット等で広くPRしている。

④商店街のPR、情報発信等の認知度向上のための事業

a.FMラジオの活用

地元のFMラジオ局で、岡本商店街提供の番組「石だたみの街から」を毎週土曜日の夜8時から放送。商店街の事務局も音響スタッフとして番組づくりに参画し、街の生の情報と魅力を発信している。

b.石だたみボーイズの活動

商店街で働く20代～30代のイケメンの店主やスタッフ14名で構成されるグループユニット「石だたみボーイズ」を結成。石だたみを歌詞に織り込んだ商店街のPRソングでCDデビュー。商店街のイベントにライブ出演する等でファンも増え、賑わいの創出に一役買っている。CDには、商店街や店舗を紹介する小冊子を同封するなどの工夫を凝らしてPR効果を高めている。

c. ユーチューブに「恋」のダンスをアップ

人気ドラマの主題歌「恋」のダンスを商店街の33店舗・100名で踊り、これをユーチューブにアップしたところ大変な評判となり、再生は4万回を超え、テレビにも取り上げられるなど大きなPR効果を生んだ。



石だたみボーイズCDジャケット

d.ホームページやSNSを活用した情報発信

商店街のニュースやイベント情報、個々の店舗の情報を発信するため、Webサイトの充実を図っているほか、Facebookを活用して街の新鮮な情報を効果的に発信している。これにより街でどのような取り組みが行われようとしているのか、イベントだけでなくアルバイトの情報等も一目でわかる状況となっている。

e.その他事業

組合では、上記のようなイベント活動に加え、岡本好文園ホールや駐車場の管理・運営を行うほか、商店街区の清掃等街の基盤となる部分の運営も確実に実施している。

自治体等との連携の状況

神戸市

神戸市では、平成26年度より商店街等に対する助成事業を改変し、従来の市側が支援メニューを提示して応募してもらう方式から、商店街等が市に対して必要とする支援を企画・提案するプロポーザル方式とした。さらに事業期間も、従来の単年度に加えて3年間での実施を可能とした。これにより、ビジョンの作成からスタートして順次事業の範囲を拡大する等効果的に事業を推進することが可能となった。

平成26年度には12団体が手を挙げ、公開プレゼンテーションの結果、岡本商店街では「商店街のコンシェルジュ配置」「ギフトブック作成」「iBeacon事業」「石だたみキャンパス」の4つの事業が採択されて実施した。

また、市では、支援のための業務量の増大に合わせて職員を増員、各事業の進捗確認とサポートを実施するほか、それぞれの事業を紹介するニュースレターを作成し、市民への周知に努めている。特に、岡本商店街の「コンシェルジュ事業」の記事は全国紙にも掲載され、組合員になったらこのようなメリットがあると認識され、加入促進にもつながった。また、別の商店街では、空き店舗が大幅に減る等の成果が上がっている。このほか市では、市内の空き店舗の情報を簡単に検索できる「商店街・市場情報ナビ」を関係団体と連携して開設しており、新たに出店したい人々の便宜を図っている。

商店街の今後の戦略

阪神・淡路大震災での地域の人々からの支援、東日本大震災後の気仙沼の復興のお手伝いなどを通じて、“人と人とのつながり”が商店街の活性化に不可欠と考え、イベントにもこうした趣旨を取り入れてきた。その結果、「商店街に行けば何かやっている」という良いイメージを持ってもらい、安定した来街者数につながっていると考えている。現在、空き店舗は比較的少ないが、地域の特性からオーナー率が5%と非常に低い。今後、賃料が高騰した場合、学習塾や薬局、不動産業など他地域からの来街客にとって魅力に欠ける業種への偏りも危惧される。そこで、年2回のオーナー会議を開催し、「街を歩く人が楽しめる店を入れてもらえないと、街の魅力がなくなる。」という我々の理念を理解してもらうとともに、オーナー同士の顔つなぎの場とし、同じ商店街の仲間という意識を高めてもらうよう努めている。

また、今後は灘五郷や有馬温泉、六甲山など日本一ともいえる地域資源を活かした企画を立案し、世界の人々とのつながりを目指して岡本の魅力を発信していきたい。

これらの取り組みを通じて人が集まる商店街を維持し、商店街への未加盟店舗に加盟を呼びかけるほか、新規開業の際にはSNSで店舗情報を発信するなど、街の魅力をより多くの人に知ってもらうための活動を継続していきたい。

～ 仕掛け人 ～

岡本商店街振興組合
理事長 松田 朗



取材を通して明らかとなったこと

当商店街は、阪神・淡路大震災の被害から復興を果たし、“若者や女性が集まるファッションブルな街”として知られている。商店街の機能として、物販やサービスの充実はもちろん、これに加えて“人と人とのつながり”を実感できるコミュニティ機能の強化が不可欠である。一つの文化であり理念ともいえるこうした機能は、街全体・組織全体で醸成していくことが重要で、このため当商店街では日頃からオーナー会議の開催や店主の研修活動に力を入れている。『お店の人も楽しんでやっていると、お客さんに楽しさが伝わらずしんどい。』という店主の言葉に代表されるように、まず実施主体が楽しめる内容であることが、人を引きつける条件であり、多くの街の参考となるものである。

また、イベント会場となる「岡本好文園ホール」の運営、石畳の街区などハード面に加えて、「石だたみボーイズ」や地元FM局の放送、豊富かつ最新の情報と楽しさをアピールしたWebサイト、新規開店の店舗を紹介するSNSの活用、近隣大学との連携など、商店街が講じている仕掛けも非常に充実している。これに加えて、日々新たな何かを創出し、街をPRしていくには、商店街事務局の感性と活躍も見逃せない大きな要素である。